



伝統を継承し、一年を祭る

## 小さな村の 小さな鬼火たき

1月7日、町内各地で恒例の鬼火たきが行われました。

城川内集落の山間部に位置する重尾地区6世帯の鬼火たきは、町内では一番小さな規模。この日は、午後から数人が集まり、道路脇の畑の片隅に、飾っていたしめ縄や門松、近くから切り出した雑木で小さなやぐらを作りました。

午後4時になり竹山ナツ子さん、まなみさん親子がやぐらに着火。白い煙が上り始めると、近所のかたがたが集まり始め、笑顔と笑い声が山中に響きました。

ナツ子さんは、「毎年この日を楽しみにして無病息災を願っている。重尾地区は高齢者が多いですが、今後もできる範囲で継承していきたい」と話しました。